

科目名	乳幼児心理学				担当	多田 幸子		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	—	
必修	—				ナンバリング	Y2301	DPとの関連	2
授業概要	誕生直後から間もない乳幼児期における心身の成長と社会的環境との間に生起する相互作用を、心理学の視点から読み解き、その成長と相互作用を促進する環境づくりの手立てを考える。							
到達目標 学習成果	1 乳幼児期のひとの発達において重要な、対他的諸現象について理解する 2 乳幼児期の、主に自他間の関係性に関する発達の諸側面についての基本的な説明の枠組み（理論）を正しく理解し説明できるようになる 3 発達早期の人的環境要因、物的環境要因に関心を持ち、どのように構成、再構成しうるか考えられるようになる							
授業計画	回	内容						
	1	社会性の発達に関する諸理論	発達早期のひとの社会性の育ちに関する心理学の諸理論を紹介する					
	2	社会性の基盤：模倣	社会性の生理学的基盤について解説し、他者を模倣する力の起源、発達を解説する					
	3	愛着の概念的定義と理論	発達早期の養育者との情緒的結びつきに関する理論を解説する					
	4	愛着に見られる発達の变化とヒト-動物間の愛着	愛着関係にもとづく行動を解説し、ヒト-動物間に形成される愛着例を読解する					
	5	自己理解の育ち：自己認知の成立	乳児期から幼児期にかけての自己意識の育ちについて解説する					
	6	他者理解と他者志向性の育ち：共感と向社会的行動	乳幼児期から児童期を中心に他者との関係性の育ちについて解説する					
	7	遊ぶことと子ども 1：演習	「遊ぶこと」が自他に対してどのような意味を持つかを考える					
	8	遊ぶことと子ども 2：解説	ひとの生活と学習の各文脈にける遊ぶことの心理学的意味を解説する					
	9	乳幼児発達心理学の古典理論再考 1：ピアジェ, J.他	古典となった認知発達理論を改めて読解し、こども期の理解に繋げる					
	10	乳幼児発達心理学の古典理論再考 2：ウィニコット, D.W.他	古典となった情緒・人格発達理論を改めて読解し、こども期の理解に繋げる					
	11	非認知能力の育ち：新しい知性としての「非認知能力」	数で測りとれない知性の育ちとその評価と予測力について解説する					
	12	非認知能力の育ち：「非認知能力」の発達支援	数で測りとれない知性の分類し、それらの力の伸長の手立てを考える					
	13	きょうだい、仲間との関係：学習の文脈として機能する子ども同士の関係	ごく身近なきょうだいと仲間との幼少期の関係性の育ちを解説する					
	14	モノとの関係が支える子どもの育ち	生活環境を成す物理的対象が人間関係構築に担う役割を解説する					
15	遊ぶことと子ども 3：発展演習	7回目・8回目の授業時に課されたワークの成果を発表、講評を受ける						
評価基準	講義・演習で取り扱った社会性の発達に関する心理学的概念、心理学的理論を正しく理解し、説明できる。また発達の諸現象に興味と関心を寄せ、自ら発展的に学ぼうとする態度を形成する。							
評価方法	期末試験 80% / ミニレポート 10% / 発問への応答等の授業への参与度 10%							
フィードバック方法	再提出を求める提出物は、授業内で示す期日までに添削し、返却する。授業時のパフォーマンスに対しては基本的にその時間内または次週冒頭に講評を伝える。試験スコアは問い合わせがあれば個別対応する。(時期によっては伝えるまでしばらく時間を要する)。							
アクティブラーニング	各授業回冒頭で個別、少人数で導入ワーク（認知課題、簡単な身体運動課題など）を実施する							
教科書	各回で必要な追加の資料を講師が準備、配布する							
参考書	一例として『Siegal, M. 2010 外山紀子（訳）子どもの知性と大人の誤解：子どもが本当に知っていること 新曜社』							
履修条件	こどもの発達と保育に関する他科目での学びと関連付けながら受講し、発展的な学習につなげること							
授業外学習	授業内で紹介する文献の講読、視聴覚教材の鑑賞、読後・視聴後の議論を積極的に行うこと							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する							